

すくすくの杜アリオ上尾園 職員自己評価結果

実施年月 2026年03月

自己評価実施人数（集計対象） 8人

No	評価項目	4点満点中
1	基本的理念と社会的責任	3.17
1	1 子どもの最善の利益を考慮して、最もふさわしい生活の場になることを意識して日々保育を行っている	3.38
1	2 子どもの人格尊重を意識して日々保育を行っている	3.38
1	3 子どもの人権に十分配慮するとともに、文化の違いを互いに尊重する心を育てよう日々保育をしている	3.38
1	4 性差への先入観による固定的な観念を植え付けないよう日々保育を行っている	3.5
1	5 子どもの特性や発達過程に応じ、発達のねらいや方針に即した援助を日々行っている	3.38
1	6 子どもの主体的な活動を促し、意欲を持って遊べるような援助を日々行っている	3.38
1	7 子どもの生活のリズムを大切に、健康、安全で情緒の安定した生活ができる環境を整えている	3.5
1	8 個人情報の取り扱い方をマニュアル等により理解し、適切に対応している	3.38
1	9 保護者の苦情に対する対応、対策をマニュアル等により理解し、発生時は適切に対応している	3.25
1	10 「幼児教育を行う施設において育みたい資質、能力」を認知、理解している	2.75
1	11 「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を理解し計画を立て、保育を行っている	2.38
1	12 「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」と園の目標・計画の繋がりを理解し、保育を行っている	2.38
2	保育の配慮事項	3.41
2	1 子どものその時々のお気持ちを受けとめて保育を行うよう日々配慮している	3.5
2	2 登園時に、子どもの発達や発達の状況、体の状態を細かく観察している	3.5
2	3 入園から就学（卒園）までの発達の連続性をイメージ・理解して保育をしている	3.38
2	4 園内は子どもが安心できる雰囲気を作ることを中心に掛けて環境を構成している	3.25
2	5 スキンシップや愛着を常に心がけて日々保育を行っている	3.38
2	6 一人一人の子どもの健康状態や発達について把握し、異常に気付くことができる	3.38
2	7 一人一人の子どもの思いや意見をはっきり伝えることができるよう配慮し、尊重している	3.38
2	8 子どもに分かりやすい言葉で優しく、穏やかに、目を見て話しかけている	3.5
3	計画・評価・育ちの見直し	3.13
3	1 全体的な計画・教育課程を見直すための会議やディスカッションの場があり、改善を行っている	3
3	2 年間指導計画により、長期的な見直しをもち、職員で共有し、日々保育を行っている	3.13
3	3 日常の保育を通して、子どもの思いや気持ちを汲み取り指導計画や自己評価に反映させている	3.13
3	4 保育目標やねらいをベースに、各年齢の子どもの発達状況に配慮した指導計画となっている	3.33
3	5 日々の保育の連続性や季節の変化を考慮して、年案、月案、週日案を作成している	3.33
3	6 子どもの実態や状況の変化に応じて、保育の振り返り、見直し改善を行っている	3
3	7 1日の生活リズムや在園時間および期間が異なる子どもが共に過ごすことを前提とした計画になっている	3.14
3	8 対話や文章化による振り返りや評価により定期的な保育の改善がされている	3.13
3	9 チェックリストによる自己評価を実施し、長所や課題を発見し、改善に努めている	3.13
4	特別支援・障がい児保育	2.04
4	1 特別支援・障がい児保育について、園全体で話し合う、情報共有する場がある	2.75
4	2 障害のある子どもの特性に合わせた個別支援のための計画を立案している	2
4	3 特別支援の担当は、園内外問わず、研修等を通じてそれら保育に必要な知識を得ている	2
4	4 特別支援のために環境が整備され、保育の内容や方法に配慮ができています	2
4	5 医療機関や療育機関などから相談や助言を必要に応じて受けている	2.25
4	6 障がいのある子どもの保護者と話す場を定期的に設け、信頼関係の構築に努めている	1.67
4	7 障がいのある子どもの保護者に適切な情報を伝えるための取り組みを行っている	1.67
4	8 障がいのある子どもの保護者に就学など将来の方向に関しての情報提供や相談に応じている	1.67
5	乳児保育のねらいと内容	3.48
5	1 発達に応じた行動（立つ、歩くなど）を自発的に行えるような環境づくりをしている	3.29
5	2 微笑みながら、子どもの欲求を尊重して授乳をしている	3.6
5	3 離乳食は、保護者、栄養士（調理員含む）と密に連携をとり、子どもの状況に配慮して提供している	3.2
5	4 一人一人の生活リズムに合わせて、睡眠をとることができるように静かな空間が確保されている	3.57
5	5 特定の保育者との継続的な関わりが保てるよう配慮している	3.29
5	6 午睡中はセンサーの使用問わず、体を仰向けにすることを認識し、体温、顔色、呼吸のチェックをしている	3.71
5	7 オムツの交換のサインを見逃さず受け止め、替えた清潔感を伝えるようにしている	3.57
5	8 生活や遊びの中で、音・形・色・手触りなどに気づかせてさまざまなものに触れさせている	3.43
5	9 上体を支え足の動きを促すなど、遊びを通して身体発達の援助を行っている	3.43
5	10 発声や喃語等を優しく受け止め応えることで、言葉の理解や発語の意欲を育てている	3.57
5	11 進級などで保育者が変わる場合は、子どもの発達に留意し職員間で協力して対応している	3.57
6	1～3歳未満のねらいと内容	3.3
6	1 生活リズムについては、一人一人の子どもの状態に合わせて対応している	3.5
6	2 走る、跳ぶ、登る、押す、引っ張るなど全身を使う遊びを取り入れている	3.25
6	3 楽しい雰囲気の中で自分で食べようとする主体的な気持ちを尊重している	3.71
6	4 子どもが自分で衣服を着脱しようとする主体的な気持ちを尊重している	3.5
6	5 一人一人の排泄状況に応じた配慮をしている	3.63
6	6 他の子どもとの関わり方や集団生活を発達に応じて身につけられるよう日々保育をしている	3.5
6	7 自分の思いを伝えたり、相手の思いに気づいたりする経験を重ねていけるよう援助している	3.38
6	8 玩具や遊具は安全で、子どもの興味や発達に合った物を選び使用させている	2.88
6	9 公園や園庭など、積極的に戸外遊びを取り入れて身体発達の促している	3.38
6	10 見る、聞く、触れるなど感覚の働きを豊かにするために機会を提供している	3.25
6	11 絵本の読み聞かせや紙芝居などを積極的に取り入れている	2.88

6	12 自然（水、砂、土、木々など）や紙、粘土などさまざまな素材に触れて楽しませている	3
6	13 音楽、リズムなどに親しみ、歌や手遊び、全身を使う遊びを取り入れている	2.88
6	14 体の状態、機嫌、食欲など日常の状態の観察を十分行うことで感染症を予防している	3.38
6	15 進級などで保育者が変わる場合は、子どもの発達に留意し職員間で協力して対応している	3.5
7	健康支援	3.23
7	1 感染症に対する園の方針やマニュアルのポイントを理解し、行動している	3.25
7	2 感染症発生時に、発生状況や感染予防策についてお知らせやお便りで保護者に通知している	3.25
7	3 不適切な養育の兆候や虐待が疑われる場合には、関係機関と連携、相談している	2.63
7	4 健康診断と歯科検診の結果について、保護者や職員に速やかに伝達している	3.86
7	5 子どもの健康情報を共有し、既往症（アレルギー・熱性けいれん・脱臼癖・喘息など）について、すべての職員に周知している	3.71
7	6 子どもの出生時から入園までの発育・発達の状況を十分に把握している	3.13
7	7 食物アレルギー児への対応として、調理室内で原因食材の混入が起らないようルールを設定し、全員で共有している	3.75
7	8 食物アレルギー児への対応として、誤食が起きないように職員同士の話し合い、チェックリストなどを作成している	3.38
7	9 保護者から与薬の要請を受ける場合や子どもに与薬する場合の対応方法を理解し、適切な処置をしている	3
7	10 包帯や応急処置用品の使用法を理解し、適切な処置をしている	2.5
8	食育の推進	3.23
8	1 全体的な計画に基づき、食事の提供を含む食育計画が提供されている	3.5
8	2 子どもが意欲的に食に関する体験ができるよう、具体的な食育計画を保育の指導計画に反映している	3.14
8	3 乳幼児にふさわしい食生活が展開されるよう、給食について見直しや改善をしている	3.29
8	4 乳幼児に身につけておきたい挨拶や姿勢、食具の持ち方など食事のマナーを伝えている	3.71
8	5 展示食、ブログ、給食だよりなどによって、年齢に適した食材の量や形状を保護者に知らせている	3.71
8	6 調理員、栄養士、保護者と連携し、個々の食物アレルギーなどの情報共有を定期的に行っている	3.63
8	7 子どもが栽培、収穫したものや調理したものを食べる機会をつくるように心がけている	1.4
8	8 食育の活動内容や考え方について、評価や改善を行っている	2.43
8	9 園での食育活動をお便りや連絡帳などを活用して保護者に周知している	3.43
8	10 自身が感謝の気持ちを持って食事をするよう努めている	3.5
9	安全管理	3.3
9	1 これまで園内で起こった事故およびヒヤリハットを理解している	3.63
9	2 ヒヤリハットを常に意識して行動し、定期的に報告、共有をしている	3.63
9	3 ヒヤリハットマップ等を作成し、園内で事故の起きやすい場所を把握している	2.63
9	4 睡眠中、水遊び中、食事中などの場面で重大事故が発生しやすいことを認識し、事故防止に努めている	3.63
9	5 事故防止や安全管理に対する園の方針や園のマニュアルなどを理解し、実践している	3.25
9	6 園内の設備、玩具、用具などを定期的に点検している	3.25
9	7 日常的に利用する散歩経路や公園などの異常や危険性などを定期的に点検している	3
9	8 外部からの侵入に対し、マニュアル等を通じて、求められる行動を理解し、定期的に訓練を行っている	3.38
10	環境・衛生管理	3.23
10	1 園内の清掃がなされ、清潔に保たれ、子どもが心地良く過ごせるよう十分な対応が出来ている	3.38
10	2 園内に子どもたちが季節感を味わえるような掲示や飾りつけの工夫をしている	3.25
10	3 子どもが活動しやすい様に室内の温度、湿度、換気、採光などを適宜調整している	3.13
10	4 一人一人の子どもの服装、頭髪、爪などを定期的にチェックしている	3.5
10	5 国の感染対策ガイドラインを確認している	2.88
10	6 感染対策に関する園のガイドラインを設け、十分に理解、共有している	3.25
11	災害対策	2.94
11	1 災害に対する園の方針などを十分に理解している	3.38
11	2 災害対応マニュアルを用意し、読み込み、十分に理解している	2.75
11	3 消火器、火災受信機、配電盤の設置場所が分かり、操作方法を知っている	2.63
11	4 園の立地や地域に応じたさまざまな災害を想定した避難訓練を行っている	3.63
11	5 保護者との連絡体制や引渡し方法のルールが明確で、それらを十分に理解している	3.25
11	6 地域や地域との関係機関と連携を図り、協力が得られるように努めている	3.13
11	7 その地域で起こった災害の種類や程度及びその後の状態を知っている	2.13
11	8 ハザードマップを把握している	2.5
11	9 地震や豪雨の際の園から避難場所への避難経路を把握している	3.13
12	家庭との連携（在園児）	3.55
12	1 保育者は日常、保護者や子どもの様子を注視し、虐待の予防や早期発見に努めている	3.63
12	2 保護者が、子育ての悩みや心配事を安心して話せる存在になるよう心掛け、対応している	3.5
12	3 送迎の際の対話や連絡帳への記載等の日常に加え、個別面談や別機会を設けている	3.43
12	4 家庭の状況や保護者との情報交換が、必要に応じて関係職員に周知されている	3.57
12	5 園だより、クラスだより、給食だより、保健だよりなどを、定期的（月1回程度）に発行している	3.86
12	6 あらかじめ年間行事の日程を知らせ、保護者が保育参加の予定を立てやすくしている	3.83
12	7 利用者満足の向上を目的とする仕組み（保護者評価、アンケートなど）を整備し、取組を行っている	3.5
12	8 虐待の疑いのある子どもの保護者への対応について児童相談所等の関係機関に紹介、通告する体制が整っている	3.14
13	家庭との連携（地域）	2.33
13	1 関係者評価や自治体など、地域の子どものための保育ニーズを把握している	3
13	2 園の活動や行事に地域の人々の参加を呼びかけるなど、地域交流できる機会を確保している	1.43
13	3 一時預かりや親子教室など、地域での子育て支援を実施し、地域への貢献を図っている	1.83
13	4 地域住民から受けた子育て相談の内容について連絡、相談する外部の関係機関を把握している	2
13	5 子どもの医療や保健に関する問題について、連絡、相談する外部の関係機関を把握している	3
13	6 地域社会との交流や地域への発信を行い、園での取り組み内容を周知している	2.5
14	職員の資質向上	3.15
14	1 園内で行われる研修や会議に積極的に参加し、資質向上を図っている	3.5
14	2 園外で行われる研修に自発的に参加し、速やかに研修報告を行っている	2.88

14	3 個人の自己評価などで課題を見つけ、その課題の解決に取り組んでいる	3.25
14	4 自己評価に基づいて研修計画が改善され、園内外問わず研修受講が出来ている	2.5
14	5 定期的に保育に関する専門書や関係書を読むなど、保育知識を習得するよう努めている	2.88
14	6 自身の保育について、園長や主任など自身の上司から意見や指導があった場合に、謙虚に学ぶ姿勢を持っている	3.38
14	7 自身の保育実践について、自ら上司や同僚のアドバイスをもらうよう努め、成長しようとしている	3.38
14	8 園で決定した方針が自身の意見と違うときに、直接その理由を聞いたり、広い視野を持って前向きに考えるようにしている	2.88
14	9 保育所の自己評価の結果を公表するよう努めなければならないとされていることを理解している。	3.13
14	10 申し送りや情報共有など、他職員と連携を取るための取り組みがなされている。	3.75

コメント

課題

1	基本的理念と社会的責任	3.17
1	1 子どもの最善の利益を考慮して、最もふさわしい生活の場になることを意識して日々保育を行っている	3.38
1	2 子どもの人格尊重を意識して日々保育を行っている	3.38
1	3 子どもの人権に十分配慮するとともに、文化の違いを互いに尊重する心を育てよう日々保育をしている	3.38
1	4 性差への先入観による固定的な観念を植え付けないよう日々保育を行っている	3.5
1	5 子どもの特性や発達過程に応じ、発達のねらいや方針に即した援助を日々行っている	3.38
1	6 子どもの主体的な活動を促し、意欲を持って遊べるような援助を日々行っている	3.38
1	7 子どもの生活のリズムを大切に、健康、安全で情緒の安定した生活ができる環境を整えている	3.5
1	8 個人情報の取り扱い方をマニュアル等により理解し、適切に対応している	3.38
1	9 保護者の苦情に対する対応、対策をマニュアル等により理解し、発生時は適切に対応している	3.25
1	10 「幼児教育を行う施設において育みたい資質、能力」を認知、理解している	2.75
1	11 「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を理解し計画を立て、保育を行っている	2.38
1	12 「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」と園の目標・計画の繋がりを理解し、保育を行っている	2.38
2	保育の配慮事項	3.41
2	1 子どものその時々のお気持ちを受けとめて保育を行うよう日々配慮している	3.5
2	2 登園時に、子どもの発育や発達の状況、体の状態を細かく観察している	3.5
2	3 入園から就学（卒園）までの発達の連続性をイメージ・理解して保育をしている	3.38
2	4 園内は子どもが安心できる雰囲気を作ることを中心に掛けて環境を構成している	3.25
2	5 スキンシップや愛着を常に心がけて日々保育を行っている	3.38
2	6 一人一人の子どもの健康状態や発達について把握し、異常に気付くことができる	3.38
2	7 一人一人の子どもの思いや意見をはっきり伝えることができるよう配慮し、尊重している	3.38
2	8 子どもに分かりやすい言葉で優しく、穏やかに、目を見て話しかけている	3.5
3	計画・評価・育ちの見直し	3.13
3	1 全体的な計画・教育課程を見直すための会議やディスカッションの場があり、改善を行っている	3
3	2 年間指導計画により、長期的な見直しをもち、職員で共有し、日々保育を行っている	3.13
3	3 日常の保育を通して、子どもの思いや気持ちを汲み取り指導計画や自己評価に反映させている	3.13
3	4 保育目標やねらいをベースに、各年齢の子どもの発達状況に配慮した指導計画となっている	3.33
3	5 日々の保育の連続性や季節の変化を考慮して、年案、月案、週日案を作成している	3.33
3	6 子どもの実態や状況の変化に応じて、保育の振り返り、見直し改善を行っている	3
3	7 1日の生活リズムや在園時間および期間が異なる子どもが共に過ごすことを前提とした計画になっている	3.14
3	8 対話や文章化による振り返りや評価により定期的な保育の改善がされている	3.13
3	9 チェックリストによる自己評価を実施し、長所や課題を発見し、改善に努めている	3.13
4	特別支援・障がい児保育	2.04
4	1 特別支援・障がい児保育について、園全体で話し合う、情報共有する場がある	2.75
4	2 障害のある子どもの子どもの特性に合わせた個別支援のための計画を立案している	2
4	3 特別支援の担当は、園内外問わず、研修等を通じてそれら保育に必要な知識を得ている	2
4	4 特別支援のために環境が整備され、保育の内容や方法に配慮ができています	2
4	5 医療機関や療育機関などから相談や助言を必要に応じて受けている	2.25
4	6 障がいのある子どもの保護者と話す場を定期的に設け、信頼関係の構築に努めている	1.67
4	7 障がいのある子どもの保護者に適切な情報を伝えるための取り組みを行っている	1.67
4	8 障がいのある子どもの保護者に就学など将来の方向についての情報提供や相談に応じている	1.67
5	乳児保育のねらいと内容	3.48
5	1 発育に応じた行動（立つ、歩くなど）を自発的に出来るような環境づくりをしている	3.29
5	2 微笑みながら、子どもの欲求を尊重して授乳をしている	3.6
5	3 離乳食は、保護者、栄養士（調理員含む）と密に連携をとり、子どもの状況に配慮して提供している	3.2
5	4 一人一人の生活リズムに合わせて、睡眠をとることができるように静かな空間が確保されている	3.57
5	5 特定の保育者との継続的な関わりが保てるよう配慮している	3.29
5	6 午睡中はセンサーの使用問わず、体を仰向けにすることを認識し、体温、顔色、呼吸のチェックをしている	3.71
5	7 オムツの交換のサインを見逃さず受け止め、替えた清潔感を伝えるようにしている	3.57
5	8 生活や遊びの中で、音・形・色・手触りなどに気づかせてさまざまなものに触れさせている	3.43
5	9 上体を支え足の動きを促すなど、遊びを通して身体発達の援助を行っている	3.43
5	10 発声や喃語等を優しく受け止め応えることで、言葉の理解や発語の意欲を育てている	3.57
5	11 進級などで保育者が変わる場合は、子どもの発達に留意し職員間で協力して対応している	3.57
6	1～3歳未満のねらいと内容	3.3
6	1 生活リズムについては、一人一人の子どもの状態に合わせて対応している	3.5
6	2 走る、跳ぶ、登る、押す、引っ張るなど全身を使う遊びを取り入れている	3.25
6	3 楽しい雰囲気の中で自分で食べようとする主体的な気持ちを尊重している	3.71
6	4 子どもが自分で衣服を着脱しようとする主体的な気持ちを尊重している	3.5
6	5 一人一人の排泄状況に応じた配慮をしている	3.63
6	6 他の子どもとの関わり方や集団生活を発達に応じて身につけられるよう日々保育をしている	3.5

6	7 自分の思いを伝えたり、相手の思いに気づいたりする経験を重ねていけるよう援助している	3.38
6	8 玩具や遊具は安全で、子どもの興味や発達に合った物を選び使用させている	2.88
6	9 公園や園庭など、積極的に戸外遊びを取り入れて身体の発達を促している	3.38
6	10 見る、聞く、触れるなど感覚の働きを豊かにするために機会を提供している	3.25
6	11 絵本の読み聞かせや紙芝居などを積極的に取り入れている	2.88
6	12 自然（水、砂、土、木々など）や紙、粘土などさまざまな素材に触れて楽しませている	3
6	13 音楽、リズムなどに親しみ、歌や手遊び、全身を使う遊びを取り入れている	2.88
6	14 体の状態、機嫌、食欲など日常の状態の観察を十分行うことで感染症を予防している	3.38
6	15 進級などで保育者が変わる場合は、子どもの発達に留意し職員間で協力して対応している	3.5
7	健康支援	3.23
7	1 感染症に対する園の方針やマニュアルのポイントを理解し、行動している	3.25
7	2 感染症発生時に、発生状況や感染予防策についてお知らせやお便りで保護者に通知している	3.25
7	3 不適切な養育の兆候や虐待が疑われる場合には、関係機関と連携、相談している	2.63
7	4 健康診断と歯科検診の結果について、保護者や職員に速やかに伝達している	3.86
7	5 子どもの健康情報を共有し、既往症（アレルギー・熱性けいれん・脱臼癖・喘息など）について、すべての職員に周知している	3.71
7	6 子どもの出生時から入園までの発育・発達の状態を十分に把握している	3.13
7	7 食物アレルギー児への対応として、調理室内で原因食材の混入が起らないようルールを設定し、全員で共有している	3.75
7	8 食物アレルギー児への対応として、誤食が起きないように職員同士の話し合い、チェックリストなどを作成している	3.38
7	9 保護者から与薬の要請を受ける場合や子どもに与薬する場合の対応方法を理解し、適切な処置をしている	3
7	10 包帯や応急処置用品の使用法を理解し、適切な処置をしている	2.5
8	食育の推進	3.23
8	1 全体的な計画に基づき、食事の提供を含む食育計画が提供されている	3.5
8	2 子どもが意欲的に食に関する体験ができるよう、具体的な食育計画を保育の指導計画に反映している	3.14
8	3 乳幼児にふさわしい食生活が展開されるよう、給食について見直しや改善をしている	3.29
8	4 乳幼児に身につけておきたい挨拶や姿勢、食具の持ち方など食事のマナーを伝えている	3.71
8	5 展示食、ブログ、給食だよりなどによって、年齢に適した食材の量や形状を保護者に知らせている	3.71
8	6 調理員、栄養士、保護者と連携し、個々の食物アレルギーなどの情報共有を定期的に行っている	3.63
8	7 子どもが栽培、収穫したものや調理したものを食べる機会をつくるように心がけている	1.4
8	8 食育の活動内容や考え方について、評価や改善を行っている	2.43
8	9 園での食育活動をお便りや連絡帳などを活用して保護者に周知している	3.43
8	10 自身が感謝の気持ちを持って食事をするよう努めている	3.5
9	安全管理	3.3
9	1 これまで園内で起こった事故およびヒヤリハットを理解している	3.63
9	2 ヒヤリハットを常に意識して行動し、定期的に報告、共有をしている	3.63
9	3 ヒヤリハットマップ等を作成し、園内で事故の起きやすい場所を把握している	2.63
9	4 睡眠中、水遊び中、食事中などの場面で重大事故が発生しやすいことを認識し、事故防止に努めている。	3.63
9	5 事故防止や安全管理に対する園の方針や園のマニュアルなどを理解し、実践している	3.25
9	6 園内の設備、玩具、用具などを定期的に点検している	3.25
9	7 日常的に利用する散歩経路や公園などの異常や危険性などを定期的に点検している	3
9	8 外部からの侵入に対し、マニュアル等を通じて、求められる行動を理解し、定期的に訓練を行っている	3.38
10	環境・衛生管理	3.23
10	1 園内の清掃がなされ、清潔に保たれ、子どもが心地良く過ごせるよう十分な対応が出来ている	3.38
10	2 園内に子どもたちが季節感を味わえるような掲示や飾りつけの工夫をしている。	3.25
10	3 子どもが活動しやすい様に室内の温度、湿度、換気、採光などを適宜調整している	3.13
10	4 一人一人の子どもの服装、頭髪、爪などを定期的にチェックしている	3.5
10	5 国の感染対策ガイドラインを確認している	2.88
10	6 感染対策に関する園のガイドラインを設け、十分に理解、共有している	3.25
11	災害対策	2.94
11	1 災害に対する園の方針などを十分に理解している	3.38
11	2 災害対応マニュアルを用意し、読み込み、十分に理解している	2.75
11	3 消火器、火災受信機、配電盤の設置場所が分かり、操作方法を知っている	2.63
11	4 園の立地や地域に応じたさまざまな災害を想定した避難訓練を行っている	3.63
11	5 保護者との連絡体制や引渡し方法のルールが明確で、それらを十分に理解している	3.25
11	6 地域や地域との関係機関と連携を図り、協力が得られるように努めている	3.13
11	7 その地域で起こった災害の種類や程度及びその後の状態を知っている	2.13
11	8 ハザードマップを把握している	2.5
11	9 地震や豪雨の際の園から避難場所への避難経路を把握している	3.13
12	家庭との連携（在園児）	3.55
12	1 保育者は日常、保護者や子どもの様子を注視し、虐待の予防や早期発見に努めている	3.63
12	2 保護者が、子育ての悩みや心配事を安心して話せる存在になるよう心掛け、対応している	3.5
12	3 送迎の際の対話や連絡帳への記載等の日常に加え、個別面談や別機会を設けている	3.43
12	4 家庭の状況や保護者との情報交換が、必要に応じて関係職員に周知されている	3.57
12	5 園だより、クラスだより、給食だより、保健だよりなどを、定期的（月1回程度）に発行している	3.86
12	6 あらかじめ年間行事の日程を知らせ、保護者が保育参加の予定を立てやすくしている	3.83
12	7 利用者満足の向上を目的とする仕組み（保護者評価、アンケートなど）を整備し、取組を行っている	3.5
12	8 虐待の疑いのある子どもの保護者への対応について児童相談所等の関係機関に紹介、通告する体制が整っている。	3.14
13	家庭との連携（地域）	2.33
13	1 関係者評価や自治体など、地域の子どものための保育ニーズを把握している	3
13	2 園の活動や行事に地域の人々の参加を呼びかけるなど、地域交流できる機会を確保している	1.43
13	3 一時預かりや親子教室など、地域での子育て支援を実施し、地域への貢献を図っている	1.83
13	4 地域住民から受けた子育て相談の内容について連絡、相談する外部の関係機関を把握している	2

13	5 子どもの医療や保健に関する問題について、連絡、相談する外部の関係機関を把握している	3
13	6 地域社会との交流や地域への発信を行い、園での取り組み内容を周知している	2.5
14	職員の資質向上	3.15
14	1 園内で行われる研修や会議に積極的に参加し、資質向上を図っている	3.5
14	2 園外で行われる研修に自発的に参加し、速やかに研修報告を行っている	2.88
14	3 個人の自己評価などで課題を見つけ、その課題の解決に取り組んでいる	3.25
14	4 自己評価に基づいて研修計画が改善され、園内外問わず研修受講が出来ている	2.5
14	5 定期的に保育に関する専門書や関係書を読むなど、保育知識を習得するよう努めている	2.88
14	6 自身の保育について、園長や主任など自身の上司から意見や指導があった場合に、謙虚に学ぶ姿勢を持っている	3.38
14	7 自身の保育実践について、自ら上司や同僚のアドバイスをもらうよう努め、成長しようとしている	3.38
14	8 園で決定した方針が自身の意見と違うときに、直接その理由を聞いたり、広い視野を持って前向きに考えるようにしている	2.88
14	9 保育所の自己評価の結果を公表するよう努めなければならないとされていることを理解している。	3.13
14	10 申し送りや情報共有など、他職員と連携を取るための取り組みがなされている。	3.75